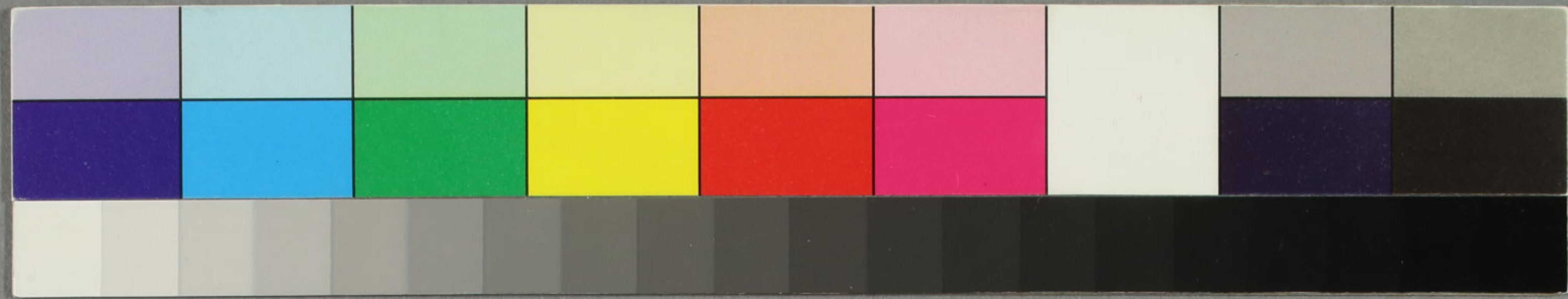


役者評判記

子13
3849
70



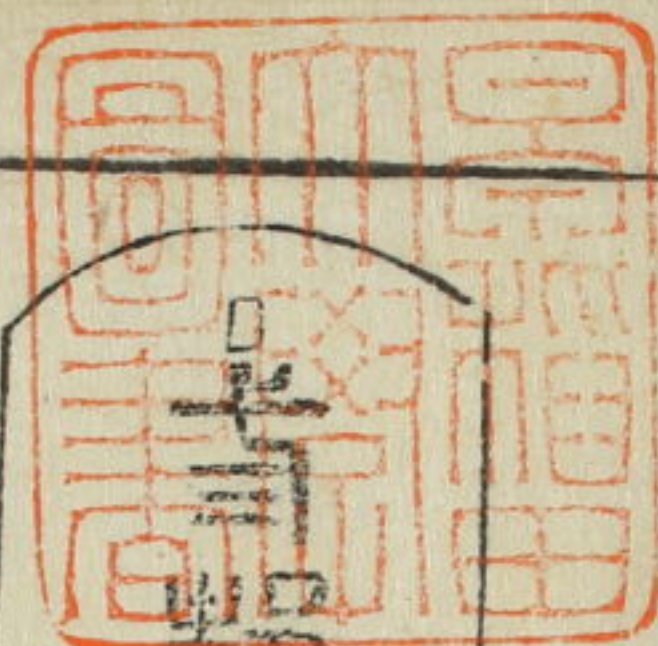


後者大學
京上

~~手多 12
16/9
6~~

手 12
3849
70





青鶴觀平

後商大

八肉金

京山條の御堂嘉敷没後月録
名代部万志夫 彦中 龜谷兼之丞

▲五段之部

○足立川東方妓の名よ寄

上上吉 嵐三又市 御堂

取作地蔵もぬいめり 七人

上上吉 中山文七 辰巳

とくくくと徳とぬあし 権松

上上吉 中山栄助 孫也

大層のお役のことも評判 業作

上上吉 中山金柳 辰巳

うけくくいぶふてくもふ 三尾

上上 三保本吉 辰巳

年切くひてぬ後 やと

上上 片岡松助 一カヤ

うめはは盛評判のきこの あり

上 市川門流 万ヤ

ま肉のお勤 萬

上 嵐金少 赤松

押ささけよあひのまの 政江

上 嵐辰十郎 上 嵐松次席

春之役 嵐三吉 丹の上

藝の仕ゆぬ 七吉

▲歌伎之部

上上吉 浪尾團次席 柳若

月細く 名み

上上 大谷門流 三好

市紅の男 お今

上上 相山紋治 丹角

名考 破江

上 嵐源次席 柳若

辰切 名ど

上 嵐来流 上 谷村流

上 中山其美席 上 大谷杉流

▲双取之部

上 浪尾本流

上 死車船之部 舟の上
中山平之部 舟の上

上 美女歌之部
中山平之部 舟の上

上上 若狭海之部 水の上
松尾の松吉 舟の上

上上 若狭海之部 水の上
松尾の松吉 舟の上

上上 三杯茶三席 舟の上
のんどう 舟の上

上上 若狭海之部 水の上
松尾の松吉 舟の上

上上 片岡松江 舟の上
は若狭 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

上 松尾海之部 舟の上

下余世とすのめとて中夜に ○ 窓をたのめんと
ふくまふと ○ 窓をたのめんと ○ 窓をたのめんと ○ 窓をたのめんと
わ ○ ○ 侍内を ○ 端の ○ 縁の ○ 縁の ○ 縁の ○ 縁の ○ 縁の
よる ○ 七 ○ 長 ○ だ ○ の ○ 西 ○ 作 ○ ま ○ 天 ○ 使 ○ 用 ○ 七 ○ 輝 ○ 数 ○ 強
お ○ 文 ○ 七 ○ 西 ○ 長 ○ 庭 ○ 行 ○ 七 ○ 年 ○ 志 ○ 丸 ○ 松 ○ 板 ○ 柱 ○ 好 ○ 才 ○ 三 ○ 五
わ ○ 七 ○ 七 ○ 長 ○ だ ○ の ○ 西 ○ 作 ○ ま ○ 天 ○ 使 ○ 用 ○ 七 ○ 輝 ○ 数 ○ 強
を ○ と ○ け ○ ち ○ け ○ ち ○ 好 ○ 好 ○ 好 ○ 好 ○ 好 ○ 好 ○ 好 ○ 好 ○ 好
け ○ 内 ○ ち ○ ち ○ ち ○ ち ○ ち ○ ち ○ ち ○ ち ○ ち ○ ち ○ ち
久 ○ 心 ○ 志 ○ ち ○ ち ○ ち ○ ち ○ ち ○ ち ○ ち ○ ち ○ ち
い ○ 方 ○ 方 ○ 方 ○ 方 ○ 方 ○ 方 ○ 方 ○ 方 ○ 方 ○ 方
十 ○ 六 ○ 四 ○ の ○ 五 ○ の ○ 七 ○ の ○ 八 ○ の ○ 九 ○ の ○ 十 ○ の
九 ○ の ○ 十 ○ の ○ 十 ○ の ○ 十 ○ の ○ 十 ○ の ○ 十 ○ の
あ ○ ぬ ○ れ ○ 十 ○ の ○ 十 ○ の ○ 十 ○ の ○ 十 ○ の ○ 十 ○ の
終 ○ 身 ○ 十 ○ の ○ 十 ○ の ○ 十 ○ の ○ 十 ○ の ○ 十 ○ の
ほ ○ の ○ 終 ○ 身 ○ 十 ○ の ○ 十 ○ の ○ 十 ○ の ○ 十 ○ の

おのころをまのくちとてまのくちとて二統体のくち

あふひのくちとてまのくちとてまのくちとて

あふひのくちとてまのくちとてまのくちとて

上上士 ○ 中山文七

其本乱而未治者否矣

そこのまのくちとてまのくちとてまのくちとて

そこのまのくちとてまのくちとてまのくちとて

そこのまのくちとてまのくちとてまのくちとて

そこのまのくちとてまのくちとてまのくちとて

そこのまのくちとてまのくちとてまのくちとて

そこのまのくちとてまのくちとてまのくちとて

そこのまのくちとてまのくちとてまのくちとて

そこのまのくちとてまのくちとてまのくちとて

そこのまのくちとてまのくちとてまのくちとて

多に成るは此の如き後が動あるは是れは成
 ぬ高きといはれり然るに合者七園杖交坂
 少の年の例出の冬は冬女後をのててうす
 川中流不動の母の腹をたがひて園流中
 赤女後出づるはくはくはくはくはくはく
 升(度)さき言能にぬの女と女赤花後つとあ
 二つより三枚相とと女と後とととととととと
 二人赤女後出づるはくはくはくはくはくはく
 少の年の例出の冬は冬女後をのててうす
 川中流不動の母の腹をたがひて園流中
 赤女後出づるはくはくはくはくはくはく
 升(度)さき言能にぬの女と女赤花後つとあ
 二つより三枚相とと女と後とととととととと
 二人赤女後出づるはくはくはくはくはくはく

物いふ合者七園杖交坂
 少の年の例出の冬は冬女後をのててうす
 川中流不動の母の腹をたがひて園流中
 赤女後出づるはくはくはくはくはくはく
 升(度)さき言能にぬの女と女赤花後つとあ
 二つより三枚相とと女と後とととととととと
 二人赤女後出づるはくはくはくはくはくはく
 少の年の例出の冬は冬女後をのててうす
 川中流不動の母の腹をたがひて園流中
 赤女後出づるはくはくはくはくはくはく
 升(度)さき言能にぬの女と女赤花後つとあ
 二つより三枚相とと女と後とととととととと
 二人赤女後出づるはくはくはくはくはくはく

松原公朝の御時より今に至るは、世に治まらざるを
 ありと申すも、

上上音 **●** 中山本妙

國一家仁國一人一家讓一國與議
 此其意の師の御時より今に至るは、世に治まらざるを
 ありと申すも、平治の御時、世に治まらざるをありと申すも、
 此其意の師の御時より今に至るは、世に治まらざるをありと申すも、
 國一家仁國一人一家讓一國與議
 此其意の師の御時より今に至るは、世に治まらざるをありと申すも、
 平治の御時、世に治まらざるをありと申すも、
 此其意の師の御時より今に至るは、世に治まらざるをありと申すも、
 國一家仁國一人一家讓一國與議
 此其意の師の御時より今に至るは、世に治まらざるをありと申すも、
 平治の御時、世に治まらざるをありと申すも、
 此其意の師の御時より今に至るは、世に治まらざるをありと申すも、
 國一家仁國一人一家讓一國與議
 此其意の師の御時より今に至るは、世に治まらざるをありと申すも、
 平治の御時、世に治まらざるをありと申すも、
 此其意の師の御時より今に至るは、世に治まらざるをありと申すも、
 國一家仁國一人一家讓一國與議

後で母の御時より今に至るは、世に治まらざるをありと申すも、
 平治の御時、世に治まらざるをありと申すも、
 此其意の師の御時より今に至るは、世に治まらざるをありと申すも、
 國一家仁國一人一家讓一國與議
 此其意の師の御時より今に至るは、世に治まらざるをありと申すも、
 平治の御時、世に治まらざるをありと申すも、
 此其意の師の御時より今に至るは、世に治まらざるをありと申すも、
 國一家仁國一人一家讓一國與議
 此其意の師の御時より今に至るは、世に治まらざるをありと申すも、
 平治の御時、世に治まらざるをありと申すも、
 此其意の師の御時より今に至るは、世に治まらざるをありと申すも、
 國一家仁國一人一家讓一國與議
 此其意の師の御時より今に至るは、世に治まらざるをありと申すも、
 平治の御時、世に治まらざるをありと申すも、
 此其意の師の御時より今に至るは、世に治まらざるをありと申すも、
 國一家仁國一人一家讓一國與議

上上音 **●** 中山会抄



續 其 房 染 分 年 綱
 辰十一月三日
 十二卷
 右例五振

方々より出立して是等ノコト也

上上 大谷門は

上上 大谷門は... (The text continues with a detailed handwritten account, mentioning various locations and events, including '大谷門' and '上上'.)

今より申すて七ノ國全の事候は...

上上 **因** 相山紋法 上のてく

上 上 相山紋法 上のてく

今より申すて七ノ國全の事候は...

今より申すて七ノ國全の事候は...

今より申すて七ノ國全の事候は...

今より申すて七ノ國全の事候は...

今より申すて七ノ國全の事候は...

今より申すて七ノ國全の事候は...

今より申すて七ノ國全の事候は...

今より申すて七ノ國全の事候は...

今より申すて七ノ國全の事候は...

今より申すて七ノ國全の事候は...

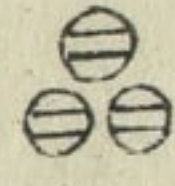
今より申すて七ノ國全の事候は...


今より申すて七ノ國全の事候は...

本寺の境内にありては、河の源流ありて、
大玉を流して、七の熱い水ありて、

上ト  後川とあり

河の源流ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、

上  行岡松江

上  浅尾志比彦

河の源流ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、

上  山下七尾

上  扇後堂

河の源流ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、

上ト吉  中山富三郎

河の源流ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、

河の源流ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、

河の源流ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、

河の源流ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、

河の源流ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、
ありて、七の熱い水ありて、

○一○二○三○四○五○六○七○八○九○十○十一○十二○十三○十四○十五○十六○十七○十八○十九○二十○二十一○二十二○二十三○二十四○二十五○二十六○二十七○二十八○二十九○三十○三十一○三十二○三十三○三十四○三十五○三十六○三十七○三十八○三十九○四十○四十一○四十二○四十三○四十四○四十五○四十六○四十七○四十八○四十九○五十○五十一○五十二○五十三○五十四○五十五○五十六○五十七○五十八○五十九○六十○六十一○六十二○六十三○六十四○六十五○六十六○六十七○六十八○六十九○七十○七十一○七十二○七十三○七十四○七十五○七十六○七十七○七十八○七十九○八十○八十一○八十二○八十三○八十四○八十五○八十六○八十七○八十八○八十九○九十○九十一○九十二○九十三○九十四○九十五○九十六○九十七○九十八○九十九○一百

文化十己の卯春

八文舎 月英述

役者大略

江戸
名古屋

役者大學

江都之卷

藝品定

大當之道。在明狂
 言。在親見物。在止
 於上手。知止而後
 有。員員。員員。而後
 能評。評。而後能請。
 請。而後能氣持。氣
 持。而後能當。作有
 當。世。態。有古風。知
 所先後。則近名人
 矣。

江戸三品最熱後者同録

さかい所 中村妙高座
ふじや所 市村松左衛門座
こびき所 森田妙高座

▲熱を頭

○月三品府四合々々此の題も奇

極上吉

瀬川仙女

中村座

ゆき出てもあまの歌の 三國一乘

上上吉

中村歌高

中村座

初よりより方々ありきと 引張屋

▲主座

至上吉

坂喜多座

市村座

所傳其記を今ての 芝居

▲立役之部

上上吉

坂東三浦式部

森田座

ゆき下も妙高平乃の 春巻巻

上上吉

沢村清之助

市村座

上上吉

尾上宗三郎

市村座

あまの世とあまの 秋物語

上上吉

市川荒式部

森田座

洋刺の先あしと 妖婦傳

上上吉

市川團十郎

市村座

原中七も名乃はあ 嫩錦

上上吉

市川門三郎

市村座

切替のいと佳月をいぬ 若草清

上上吉

圓二十郎

中村座

今ゆくは乃わいあのか 楳桐屋

上上吉

小川若右衛門

中村座

清き地へいけなご 十三七郎

上上吉

大谷鬼次

森田座

後あつたの川ととも 高松清

上上吉

尾上紋之助

森田座

こひた下へ乃帰りのと 物草子

上上吉

市山七郎

中村座

上上 池名乃小ひと志とて 四山記
松本武市郎 志田庄

上上 相六のさむらひの流ひ上り 徳角彦
死守少之郎 市村庄

上上 藤原のこがねもせりと 柳井庄
小川十右衛門 志田庄

上 中一親の仕出の流るぬ 安藤治
市川義彦 中村庄

上 橋山運彦 中上 市川四郎の流るぬ
市川元彦 市上 坂本大介市

上 坂本元彦 市上 坂本大介市
市川留吉 市上 市川留吉の流るぬ
市川留吉 中村庄

上上吉 市川留吉の流るぬ 中村庄
立保春油 市上 市川留吉の流るぬ 甲斐市

上上吉 秋野伊之郎 志田庄
相ふれよとて以上の流るぬ 大野松五
▲老功之部
山科正市 志田庄

上上 市上切由の流るぬ 由利君
坂本彦左衛門 市村庄

上上 坊主がうらなすとて 松盛義利
尾上雷助 中村庄

上上 市上 志田庄
おぼろふれとて 志田庄

上上 市上 志田庄
ゆとやうとて 志田庄

上上吉 ▲実彦之部
尾上松助 志田庄

上上吉 市上 志田庄
わらわの流るぬとて 志田庄

上上吉 市上 志田庄
相六の流るぬとて 志田庄

上上吉 市上 志田庄
志田庄の流るぬとて 志田庄

上上吉 市上 志田庄
志田庄の流るぬとて 志田庄

▲款段之部

上上 嵐彦彦 中村彦彦

上上 中村彦彦 中村彦彦

上上 嵐平九彦 志田彦彦

上上 嵐野平 志田彦彦

上上 松平小次彦 志田彦彦

上上 松平小次彦 志田彦彦

上上 坂东彦彦 志田彦彦

上上 浪村彦彦 志田彦彦

上上 市川彦彦 志田彦彦

上上 市川彦彦 志田彦彦

上上 市川彦彦 志田彦彦

上上 市川彦彦 志田彦彦

上上 市川彦彦 志田彦彦

上上 市川彦彦 志田彦彦

上上 市川彦彦 志田彦彦

上上 市川彦彦 志田彦彦

上上 市川彦彦 志田彦彦

上上 市川彦彦 志田彦彦

上上 市川彦彦 志田彦彦

上上 市川彦彦 志田彦彦

中村彦彦

中村彦彦

志田彦彦

志田彦彦

志田彦彦

志田彦彦

志田彦彦

志田彦彦

志田彦彦

志田彦彦

志田彦彦

志田彦彦

志田彦彦

志田彦彦

志田彦彦

志田彦彦

志田彦彦

志田彦彦

志田彦彦

志田彦彦

上ト 坂東大老 中田九郎 又平

上ト 中村秀忠 中村九郎

上 赤川の助 中村九郎

上上吉 ▲ 義女取之部 市村九郎

上上吉 中村屋好 双名傳

上上吉 赤川園之助 赤川九郎

上上吉 芳沢いさは 赤川九郎

上上吉 沢村田之助 赤川九郎

上上吉 山下民之助 赤川九郎

上上 赤川おのへ 赤川九郎

上上 山下民之助 赤川九郎

上上 赤川屋之助 赤川九郎

上上 岩井梅彦 赤川九郎

上上 中村妻之助 赤川九郎

上上 中山常次郎 赤川九郎

上上 赤川漢次郎 赤川九郎

上上 中村七次 赤川九郎

上上 中山常次郎 赤川九郎

上上吉 赤川屋之助 赤川九郎

上上吉 赤川園之助 赤川九郎

上上吉 赤川おのへ 赤川九郎

上上吉 赤川屋之助 赤川九郎

上上吉 赤川漢次郎 赤川九郎

上上吉 赤川七次 赤川九郎

上上吉 赤川常次郎 赤川九郎

上上吉 赤川屋之助 赤川九郎

上上吉 赤川園之助 赤川九郎

上上吉 赤川おのへ 赤川九郎

突とぬとのまひとふく 徳地巻

▲熱巻畑大尾 中村氏

助了屋高助 中村氏

▲古夫元之郷 松平氏

上上吉 中村勘之助 尾木

上上吉 中村七之助 今元氏

上上吉 中村の石 今元氏

上上吉 市村服左衛門 今元氏

上上吉 坂本赤巻 今元氏

上上吉 藤田勘之助 今元氏

再興古田坊ノ芳とを 今元氏

▲三ノ庄龍ノ方之坊 今元氏

○中村氏

口 藤巻 坂田門十ノ

口 坂田門十ノ 坂田氏

口 尾取巻左衛門 尾取氏

口 岡安巻八 岡安氏

口 岡安巻七 岡安氏

口 中村巻之助 中村氏

口 松永徳巻左衛門 松永氏

口 松永徳巻左衛門 松永氏

口 松永徳巻左衛門 松永氏

口 松永徳巻左衛門 松永氏

口 松永徳巻左衛門 松永氏

口 松永徳巻左衛門 松永氏

口 松永徳巻左衛門 松永氏

口 松永徳巻左衛門 松永氏

口	江戸	一	江戸
口	江戸	二	江戸
口	江戸	三	江戸
口	江戸	四	江戸
口	江戸	五	江戸
口	江戸	六	江戸
口	江戸	七	江戸
口	江戸	八	江戸
口	江戸	九	江戸
口	江戸	十	江戸
口	江戸	十一	江戸
口	江戸	十二	江戸
口	江戸	十三	江戸
口	江戸	十四	江戸
口	江戸	十五	江戸
口	江戸	十六	江戸
口	江戸	十七	江戸
口	江戸	十八	江戸
口	江戸	十九	江戸
口	江戸	二十	江戸

○市村庄

口	西川	一	西川
口	西川	二	西川
口	西川	三	西川
口	西川	四	西川
口	西川	五	西川
口	西川	六	西川
口	西川	七	西川
口	西川	八	西川
口	西川	九	西川
口	西川	十	西川
口	西川	十一	西川
口	西川	十二	西川
口	西川	十三	西川
口	西川	十四	西川
口	西川	十五	西川
口	西川	十六	西川
口	西川	十七	西川
口	西川	十八	西川
口	西川	十九	西川
口	西川	二十	西川

口	西川	一	西川
口	西川	二	西川
口	西川	三	西川
口	西川	四	西川
口	西川	五	西川
口	西川	六	西川
口	西川	七	西川
口	西川	八	西川
口	西川	九	西川
口	西川	十	西川
口	西川	十一	西川
口	西川	十二	西川
口	西川	十三	西川
口	西川	十四	西川
口	西川	十五	西川
口	西川	十六	西川
口	西川	十七	西川
口	西川	十八	西川
口	西川	十九	西川
口	西川	二十	西川

○東田庄

口	東田	一	東田
口	東田	二	東田
口	東田	三	東田
口	東田	四	東田
口	東田	五	東田
口	東田	六	東田
口	東田	七	東田
口	東田	八	東田
口	東田	九	東田
口	東田	十	東田
口	東田	十一	東田
口	東田	十二	東田
口	東田	十三	東田
口	東田	十四	東田
口	東田	十五	東田
口	東田	十六	東田
口	東田	十七	東田
口	東田	十八	東田
口	東田	十九	東田
口	東田	二十	東田

市村庄

今村吉助

櫻村要助

清水要助

松井軌七

曾根心吉

松井孝三

福盛久助

石永五郎

田名島八

多幸大藏

玉吉兼助

栄老助

松川丹次

谷田次

福田治助

文化五戊辰年... 俗名小佐川常世... 行年五十五... 寺下谷... 運寺

○同口

御守の... 高の... 寺...

中村庄

寛永元甲子... 文化六己歳...

市村庄

寛永十甲戌... 文化己歳...

本橋園庄

万治三庚子... 文化己歳...

此庄... 如嘉例...

三番弱中村助常

千宗中村明石

狂乞の御願恩賀仙

千宗三坂末彦常

三番弱市村助常

千宗市川園十常



御願恩賀仙
尾上村

巴才彦
中村彦



松平源氏
尾上村

市村彦
尾上村



花見雲楠
尾上村

尾上村
尾上村



大
工

中村氏清の...
中村氏清の...
中村氏清の...

上上 ⑥ 波打浪糸巾 中村氏

⑦ 坂東長浪 中村氏

上上言 ⑧ 嵐三八 中村氏

⑨ 中村氏清の...

⑩ 中村氏清の...

⑪ 中村氏清の...

⑫ 中村氏清の...

欽段之部

上上 ⑬ 嵐踏糸 中村氏

⑭ 中村氏清の...

⑮ 中村氏清の...

上上 ⑯ 中村氏清の...

⑰ 中村氏清の...

⑱ 中村氏清の...

⑲ 中村氏清の...

⑳ 中村氏清の...

上上 ㉑ 嵐平糸巾 中村氏

上上 ㉒ 嵐新平 中村氏

上上 ㉓ 松平小糸巾 中村氏

上上 ㉔ 萩籠糸巾 中村氏

⑳ 中村氏清の...

㉕ 中村氏清の...

上 ㉖ 坂東長浪 中村氏

㉗ 中村氏清の...

上 ① 沢村治之助 日産

上 回 市川宗三清 日産

② 市川宗三清 日産

上 市川宗三清 日産

③ 市川宗三清 日産

④ 市川宗三清 日産

⑤ 市川宗三清 日産

⑥ 市川宗三清 日産

⑦ 市川宗三清 日産

⑧ 市川宗三清 日産

⑨ 市川宗三清 日産

⑩ 市川宗三清 日産

⑪ 市川宗三清 日産

⑫ 市川宗三清 日産

⑬ 市川宗三清 日産

⑭ 市川宗三清 日産

⑮ 市川宗三清 日産

⑯ 市川宗三清 日産

⑰ 市川宗三清 日産

⑱ 市川宗三清 日産

⑲ 市川宗三清 日産

⑳ 市川宗三清 日産

㉑ 市川宗三清 日産

㉒ 市川宗三清 日産

㉓ 市川宗三清 日産

㉔ 市川宗三清 日産

㉕ 市川宗三清 日産

㉖ 市川宗三清 日産

㉗ 市川宗三清 日産

㉘ 市川宗三清 日産

上上 ① 相成候者

上上 ② 相成候者

上上 ③ 相成候者

上上 ④ 相成候者

上上 ⑤ 相成候者

上上 ⑥ 相成候者

上上 ⑦ 相成候者

上上 ⑧ 相成候者

上上 ⑨ 相成候者

上上 ⑩ 相成候者

上上 ⑪ 相成候者

上上 ⑫ 相成候者

上上 ⑬ 相成候者

上上 ⑭ 相成候者

上上 ⑮ 相成候者

上上 ⑯ 相成候者

上上 ⑰ 相成候者

上上 ⑱ 相成候者

上上 ⑲ 相成候者

上上 ⑳ 相成候者

上上 ㉑ 相成候者

上上 ㉒ 相成候者

▲ 若女形と辨

上上吉 ① 市川宗三清 日産

② 市川宗三清 日産

③ 市川宗三清 日産

④ 市川宗三清 日産

⑤ 市川宗三清 日産

⑥ 市川宗三清 日産

⑦ 市川宗三清 日産

⑧ 市川宗三清 日産

⑨ 市川宗三清 日産

⑩ 市川宗三清 日産

⑪ 市川宗三清 日産

⑫ 市川宗三清 日産

⑬ 市川宗三清 日産

⑭ 市川宗三清 日産


⑮ 市川宗三清 日産

四六 幸は中債やるとも西のうらが元は中債
のいもかかあきあきまはちあひいあ
中を 市川 金内のおあうやうておあうく


上上吉  中村 里好 市村 庄

市川 幸は天何の候あてまはちい勸もあう
去まの流中ち川と名取本林下河出で娘小
松の幸いふてあきまきとてあひよあきま

市川 幸は中債若あきせの骨中村里好と
あき市村は勸あきあきとてあひよあきあ
彼押まうく候えよとあきまきとてあきあ
其由は流中まの候若とあきあきあきあ
あての骨のあきまきとてあひよあきあ
あきあきあきあきあきあきあきあきあ
あきあきあきあきあきあきあきあきあ

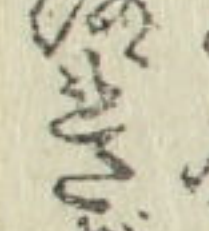
上上吉  市川 園之助 来見

四六 幸は中債やるとも西のうらが元は中債
のいもかかあきあきまはちあひいあ

上上吉  市川 園之助 来見

市川 幸は天何の候あてまはちい勸もあう
去まの流中ち川と名取本林下河出で娘小
松の幸いふてあきまきとてあひよあきま

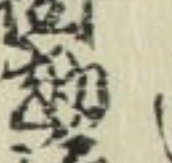
市川 幸は中債若あきせの骨中村里好と
あき市村は勸あきあきとてあひよあきあ
彼押まうく候えよとあきまきとてあきあ
其由は流中まの候若とあきあきあきあ
あての骨のあきまきとてあひよあきあ
あきあきあきあきあきあきあきあきあ
あきあきあきあきあきあきあきあきあ

上上吉  市川 園之助 来見

因縁者もあつたにやうな事だと思つた

上上吉  坂本五郎 既帝

上上吉  森田島孫 与次

 因縁者もあつたにやうな事だと思つた

再考之有らば此時此處に此の事だと思つた

以て此の事だと思つた

此の事だと思つた

此の事だと思つた

此の事だと思つた

此の事だと思つた

此の事だと思つた

七日分りし事

文和六年己酉月吉日 作者 自笑

公家老松尾氏

名古唐揚師表之全五所敷置者月球

兩代相模守 江守 貞十又帝

▲五段実原教段段段

○乃五段四三二五五松尾の名事

上上吉 茨野傳書

上上吉 秀松のこもり八段年の 華堂

上上吉 市川市松 石守

上上吉 仲山又帝 壺坂

上上吉 子まがあらはれていゝづ

上上吉 市川八白鹿 洗破

上上 気持ハひくうぬ上の

上上 大谷門虎 書出

上上 折く市松七梅 七

上上 尾上段帝

氏人の初孫の 杉川

上上 山村友太

とあゝ丸々ぬ 六角堂

上 沢村金吾

ゆ彼でもお殿又働く 観音寺

上 中山文彦

よゝうの 四出様と松の尾

正 中山平吉 上 沢村金吾

下 姉川吉兵衛 上 中山友太

正 三村透平 上 市川三右衛門

正 芳沢宗清 上 藤野宗吉

正 市川和之丞 上 藤川徳吉

▲ 長女 娘 三 神

上上吉 中山三右衛門

りさしと上方ふととるさの長守

上上吉 沢村田之助

ふりやの 藤原は上は後今と松尾

上上 姉川みゆ

今ゆい 是と持せし 藤井吉

上上 坂本孝吉

押さの ちつとらとら 藤野

上 中山孝吉

顔の うらうら 藤野

上 斤墨松江

▲ 小段 三 神

上上 姉川徳彦

上上 藤野中彦

上上 中山文彦

立波 ▲ 惣巻 三 神

大上吉 行國 三 神

あいの 天さき 下とら 札とら 那須山

千 粒 万 葉 集

役者大學

名古屋之巻

○周

鹽田無極益... 名古屋之巻... 役者大學... 周... 鹽田無極益... 名古屋之巻... 役者大學... 周... 鹽田無極益... 名古屋之巻... 役者大學... 周...

上上吉



秋野行帝

秋野行帝... 秋野行帝... 秋野行帝... 秋野行帝... 秋野行帝... 秋野行帝... 秋野行帝... 秋野行帝... 秋野行帝... 秋野行帝...

秋野行帝... 秋野行帝... 秋野行帝... 秋野行帝... 秋野行帝... 秋野行帝... 秋野行帝... 秋野行帝... 秋野行帝... 秋野行帝...

亦わかし合給後其果茶に於ては此の如し一七〇の
 物と云ふは其の如しに云ふは其の如し一七〇の
 知方左を寄するに云ふは其の如し一七〇の
 其の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の
 其の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の
 其の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の
 其の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の
 其の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の

上上 大音門

此を其の初て備はるべき事なりと云ふは其の如し一七〇の
 勤心守之て其の如し一七〇の如し一七〇の
 二月の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の
 其の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の
 其の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の
 其の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の

此の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の
 其の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の
 其の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の
 其の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の
 其の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の
 其の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の
 其の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の

上上 尾上夜

此の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の
 其の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の
 其の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の
 其の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の
 其の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の
 其の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の

上上 小村女

此の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の
 其の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の
 其の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の
 其の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の
 其の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の
 其の如し一七〇の如し一七〇の如し一七〇の

ふらふらと遊んでゐるやうな同族で、特別の事もなく
あつたやうに、遊んでゐるやうな同族で、特別の事もなく
あつたやうに、遊んでゐるやうな同族で、特別の事もなく

上 ⑤ 沢村三郎

彼は方々をめぐり、あつたやうに、遊んでゐるやうな同族で、特別の事もなく
あつたやうに、遊んでゐるやうな同族で、特別の事もなく

上 ⑥ 中山久太郎

彼は方々をめぐり、あつたやうに、遊んでゐるやうな同族で、特別の事もなく
あつたやうに、遊んでゐるやうな同族で、特別の事もなく

▲若女形三郎

上上吉 ⑦ 中山三郎

大団場のついで、あつたやうに、遊んでゐるやうな同族で、特別の事もなく
あつたやうに、遊んでゐるやうな同族で、特別の事もなく


うらもくまののけりし^三 ^四 ^五 ^六 ^七 ^八 ^九 ^十 ^{十一} ^{十二} ^{十三} ^{十四} ^{十五} ^{十六} ^{十七} ^{十八} ^{十九} ^{二十} ^{二十一} ^{二十二} ^{二十三} ^{二十四} ^{二十五} ^{二十六} ^{二十七} ^{二十八} ^{二十九} ^{三十} ^{三十一} ^{三十二} ^{三十三} ^{三十四} ^{三十五} ^{三十六} ^{三十七} ^{三十八} ^{三十九} ^{四十} ^{四十一} ^{四十二} ^{四十三} ^{四十四} ^{四十五} ^{四十六} ^{四十七} ^{四十八} ^{四十九} ^{五十} ^{五十一} ^{五十二} ^{五十三} ^{五十四} ^{五十五} ^{五十六} ^{五十七} ^{五十八} ^{五十九} ^{六十} ^{六十一} ^{六十二} ^{六十三} ^{六十四} ^{六十五} ^{六十六} ^{六十七} ^{六十八} ^{六十九} ^{七十} ^{七十一} ^{七十二} ^{七十三} ^{七十四} ^{七十五} ^{七十六} ^{七十七} ^{七十八} ^{七十九} ^{八十} ^{八十一} ^{八十二} ^{八十三} ^{八十四} ^{八十五} ^{八十六} ^{八十七} ^{八十八} ^{八十九} ^{九十} ^{九十一} ^{九十二} ^{九十三} ^{九十四} ^{九十五} ^{九十六} ^{九十七} ^{九十八} ^{九十九} ^百

そのおのまもそへて^一 ^二 ^三 ^四 ^五 ^六 ^七 ^八 ^九 ^十 ^{十一} ^{十二} ^{十三} ^{十四} ^{十五} ^{十六} ^{十七} ^{十八} ^{十九} ^{二十} ^{二十一} ^{二十二} ^{二十三} ^{二十四} ^{二十五} ^{二十六} ^{二十七} ^{二十八} ^{二十九} ^{三十} ^{三十一} ^{三十二} ^{三十三} ^{三十四} ^{三十五} ^{三十六} ^{三十七} ^{三十八} ^{三十九} ^{四十} ^{四十一} ^{四十二} ^{四十三} ^{四十四} ^{四十五} ^{四十六} ^{四十七} ^{四十八} ^{四十九} ^{五十} ^{五十一} ^{五十二} ^{五十三} ^{五十四} ^{五十五} ^{五十六} ^{五十七} ^{五十八} ^{五十九} ^{六十} ^{六十一} ^{六十二} ^{六十三} ^{六十四} ^{六十五} ^{六十六} ^{六十七} ^{六十八} ^{六十九} ^{七十} ^{七十一} ^{七十二} ^{七十三} ^{七十四} ^{七十五} ^{七十六} ^{七十七} ^{七十八} ^{七十九} ^{八十} ^{八十一} ^{八十二} ^{八十三} ^{八十四} ^{八十五} ^{八十六} ^{八十七} ^{八十八} ^{八十九} ^{九十} ^{九十一} ^{九十二} ^{九十三} ^{九十四} ^{九十五} ^{九十六} ^{九十七} ^{九十八} ^{九十九} ^百

上上 柿川みあて

及川あきの柿葉文二区補八区本岩村
系ゆと及あゆりがまはつてその所通玉まあ
秋のあまぬのしりはまてはなはひのあま
まはちあまはひしに二夜をおねてまろまふ

十四の字の振をばまゝにばまゝに振りて
とんとはばばばとて十四の字の振をばまゝに
てよまゝにばばばばばばばばばばばばばば
まゝにばばばばばばばばばばばばばばば
まゝにばばばばばばばばばばばばばばば
らばばばばばばばばばばばばばばば

上上  坂本まき

十四の字の振をばまゝにばまゝに振りて
とんとはばばばとて十四の字の振をばまゝに
てよまゝにばばばばばばばばばばばばばば
まゝにばばばばばばばばばばばばばばば
まゝにばばばばばばばばばばばばばばば
らばばばばばばばばばばばばばばば

と  中山まき

上  斤尾松

十四の字の振をばまゝにばまゝに振りて
とんとはばばばとて十四の字の振をばまゝに
てよまゝにばばばばばばばばばばばばばば
まゝにばばばばばばばばばばばばばばば
まゝにばばばばばばばばばばばばばばば
らばばばばばばばばばばばばばばば

十四の字の振をばまゝにばまゝに振りて
とんとはばばばとて十四の字の振をばまゝに
てよまゝにばばばばばばばばばばばばばば
まゝにばばばばばばばばばばばばばばば
まゝにばばばばばばばばばばばばばばば
らばばばばばばばばばばばばばばば

大十吉  斤尾松

十四の字の振をばまゝにばまゝに振りて
とんとはばばばとて十四の字の振をばまゝに
てよまゝにばばばばばばばばばばばばばば
まゝにばばばばばばばばばばばばばばば
まゝにばばばばばばばばばばばばばばば
らばばばばばばばばばばばばばばば

音曲語様 典立竹は文天著 改正西島辨大全 全一冊
口授秘傳

はきつ洋より師通つてひたりとく妙と
ららとる事よて章附ととく紀一
言曲二乃よれめと海内の通乃此子引
なてい左い佛求の巻えと括とる

三津太喜 近黒山人著 鷓鴣石 全一冊
役者物語也

大老中著 發聲少著 同 後備二見 貝 全一冊

同 續備 瓜乃蔓 逆列 全一冊

右とびつても役者物事仕換乃書ことく
ね言のせりふとくしうく絶一独とくうつる
けハニ本よてく存人

役者舞臺言葉 全一冊

はらとては役者の物事せりぬるは
ニ弦の唱言やとくあらし

役者大學

京下
森

役者大學

藝品定

京撰之卷

芝居好曰。大學評
家之秘書。而諸客
入觀之門也。於今
可見。好人爲評。次
寬者。獨賴此篇之
存。而春益次之好
者。必由是而論焉。
則庶乎評不差矣。

大坂式三番物段若目強
乃後世に於て
名義は九番と云
此中嵐巻三番
は市中の別名也
名義

▲五段之部

上吉 〇凡立科は名義名も奇
嵐巻三番 嵐巻

上吉 教三つと女中八統
市川市巻 中山

上吉 市巻の面影がんと寄て
市川八百巻 嵐巻

上吉 口たのくかへう中車
嵐巻三番 口巻

上上士 三林大巻師 中山

上上 小出と巻くはる 大巻

上上 次方よ巻がよつてき
同 三番師 口巻

上上 男方ののちいふぐけ
中山新七 中山

上 ぬとせてもえやまの
中山新平 口巻

上 くしや付ぬらうまよ
嵐巻三番 口巻

上 形い仕ぬの料理のよ
大谷友次師 嵐巻

上 先仕出のやまよ
市川巻巻 中山

上 程なつておのりや
嵐巻三番 嵐巻

上吉 中山新巻師 嵐巻

上吉 大谷友次師 嵐巻

▲実巻之部
嵐の仕ぬまよまの
実巻新巻師 嵐巻

上吉

中山文氏所

中山庄

上吉

清尾奥山

尾庄

上上

相山紋次

中山庄

上上

嵐園八

尾庄

上上

柴崎若菜

尾庄

上上

嵐園之席

中山庄

上

志井次席之

尾庄

上

坂東園之門

尾庄

上

市川鱈尾

尾庄

めどかされても角はあ

よしくと声れくつ六

まがまねていともあさ

お教とに角をあげら

後そのつ川でも殺つ

表付乃がらつちをさ

いさけのちけりといふ

おきじをわい使ひあ

いすのちをいすのち

正

今村七之席中上 坂東若菜席尾

正

中山文氏席中上 叶濃云席尾

正

三林十席中上 清尾若菜席尾

正

清尾園子席中上 坂東若菜席尾

正

中山文氏席中上 中村若菜席尾

正

市川勘右席中上 市川侯若席尾

上上

嵐冠十席 尾庄

上上

いづでもしりきよいふ 櫻久

上上

相野谷若十席 尾庄

上上

お巻のらり奥若菜席の 中庄

上上

江村園之席 中山庄

上上

かむり後とをう徳とさ 尾庄

上上

▲道外若菜席之類

上上

江村若菜席 尾庄

上上

何保まうふてもこれか 尾庄

上上

坂東清若席 尾庄

上上

らんを身よりをさむの 尾庄

上善

▲表女殿之部

叶 残子

凡座

上上

三系浪江

凡座

上上

押立をひくく

凡座

上上

中村 宗吉

凡座

上上

中村 宗吉

凡座

上上

山下 宗吉

凡座

上上

風 彦三郎

凡座

上上

辰川 政吉

凡座

上上

辰川 政吉

凡座

上上

叶 梅吉

凡座

上上

芳原 子代

凡座

上上

叶 久吉

凡座

上上

三浦 彦三郎

凡座

上上

風 梅之吉

凡座

上上

中村 松之吉

凡座

上上

中村 大吉

凡座

上上

三浦 徳次郎

凡座

上上

▲表 荒取之部

凡座

上上

中山 百太郎

凡座

上上

中村 篤彦

凡座

上上

▲子 渡之部

凡座

上上

風 芳之吉

凡座

上上

多田 大吉

凡座

上

嵐松之柳

扱く多き一山 嵐松

▲若菜之部

中山他志 瓦産

急共ハク下ノ山 大産

上

嵐川 嵐産 中山産

折續ニシテ動カズ出サ 今又

▲嵐産色子之部

嵐川元之部 山下池之部

片島古之部 中山水之部

市川丹之部 市川尾之部

相模谷之部 相模谷平之部

大谷古之部 市川法之部

浅尾奥之部 浅尾奥之部

浅尾丹之部 浅尾赤之部

嵐助之部 嵐助之部

中山古之部 嵐産

▲中山産色子之部

中山福之部 山村志之部

嵐志之部 浅尾園之部

坂东己之部 大谷音之部

中山文之部 中村原之部

中山新之部 市川田之部

片島古之部 嵐之根松

嵐川古之部 市川他志

嵐川小之部 中村之部

真上書

▲熱之部

芳法為先 嵐産

▲軌子方之部

○嵐産之部 中山産之部

横野 中村之部 長守 於本産之

長守 中村之部 口 矢野之部

口 蘇野之部 之産 於本産之部

口 磯野之部 口 中川之部

- 一 彦 松中 万吉
- 一 彦 松中 七
- 一 彦 松中 八
- 一 彦 松中 九
- 一 彦 松中 十
- 一 彦 松中 十一
- 一 彦 松中 十二
- 一 彦 松中 十三
- 一 彦 松中 十四
- 一 彦 松中 十五
- 一 彦 松中 十六
- 一 彦 松中 十七
- 一 彦 松中 十八
- 一 彦 松中 十九
- 一 彦 松中 二十
- 一 彦 松中 二十一
- 一 彦 松中 二十二
- 一 彦 松中 二十三
- 一 彦 松中 二十四
- 一 彦 松中 二十五
- 一 彦 松中 二十六
- 一 彦 松中 二十七
- 一 彦 松中 二十八
- 一 彦 松中 二十九
- 一 彦 松中 三十
- 一 彦 松中 三十一
- 一 彦 松中 三十二
- 一 彦 松中 三十三
- 一 彦 松中 三十四
- 一 彦 松中 三十五
- 一 彦 松中 三十六
- 一 彦 松中 三十七
- 一 彦 松中 三十八
- 一 彦 松中 三十九
- 一 彦 松中 四十
- 一 彦 松中 四十一
- 一 彦 松中 四十二
- 一 彦 松中 四十三
- 一 彦 松中 四十四
- 一 彦 松中 四十五
- 一 彦 松中 四十六
- 一 彦 松中 四十七
- 一 彦 松中 四十八
- 一 彦 松中 四十九
- 一 彦 松中 五十

松言作者之部

寺河篤卿
田邊経七

松言

寺河十兵衛
田松治助
並末守三郎
田松徳三

市岡和七

中山屋多 寺河守子郎

並末守三郎

子松守三郎

○乃江出

今更い、茶のや、松言の家、の、茶、
松言の家、茶の、松言の家、の、茶、
松言の家、茶の、松言の家、の、茶、

文化五年辰巳月十六日寺河篤卿光岡寺

款 寺河貫

俗名松川云々

文化五年辰巳月十日寺河篤卿西光寺

款 是量

俗名松川云々

文化五戊辰月九日 春分 光厳天皇
叙 離 性 後醍醐天皇御
13年 四月六日

文化五戊辰五月六日 寺中 寺
急 教院 觀 教 信 士 後醍醐天皇御
13年 八月十八日

文化五戊辰五月二日 寺 今交 傳 宣 旨
加 覺 了 雲 堂 後醍醐天皇御
13年 四月十八日

文化四丁卯七月十日 寺 今交 傳 宣 旨
徹 德 俊 藝 信 士 後醍醐天皇御
13年 十二月九日

文化五戊辰十月九日 寺 中 傳 宣 旨
叙 了 西 後醍醐天皇御
13年 六月十八日

押のふるをまへくつりし物うのふを復あり
て有る方より中傳宣旨之れは清徳信士
兼室曜の事あり其の事なるは清徳信士
く二度其の事なるは清徳信士の事なるは
も清徳信士の事なるは清徳信士の事なるは

と高僧の事なるは清徳信士の事なるは
疎きう今より其の事なるは清徳信士の事なるは
市川市に於て清徳信士の事なるは清徳信士の事なるは
と清徳信士の事なるは清徳信士の事なるは清徳信士の事なるは
一現は清徳信士の事なるは清徳信士の事なるは清徳信士の事なるは
の清徳信士の事なるは清徳信士の事なるは清徳信士の事なるは
他の事なるは清徳信士の事なるは清徳信士の事なるは清徳信士の事なるは
と清徳信士の事なるは清徳信士の事なるは清徳信士の事なるは清徳信士の事なるは
と清徳信士の事なるは清徳信士の事なるは清徳信士の事なるは清徳信士の事なるは
市川市に於て清徳信士の事なるは清徳信士の事なるは清徳信士の事なるは
一世一代 一乃流 全二冊
右の事なるは清徳信士の事なるは清徳信士の事なるは清徳信士の事なるは
清徳信士の事なるは清徳信士の事なるは清徳信士の事なるは清徳信士の事なるは

後者百人衆化粧鏡 流筆重 全部を冊
三ヶ津太三郎の役をいかに似て百人衆の
飾りありありと幸し

後者草の種 流筆重 全部を冊
右の三ヶ津太三郎の役をいかに似て百人衆の
飾りありありと幸し

後者用文章 流筆重 全部二冊
三ヶ津の役の流筆の文章をいかに似て百人衆の
飾りありありと幸し

けいせいの浅間蔵 全部二冊
右の三ヶ津太三郎の役をいかに似て百人衆の
飾りありありと幸し

戯場一覽 全部四冊
三ヶ津太三郎の役をいかに似て百人衆の
飾りありありと幸し

後者大系圖 全部を冊
三ヶ津太三郎の役をいかに似て百人衆の
飾りありありと幸し

文化五年辰二月吉日
八文字左八右右板元

○ 閑巻

後者大系圖の如きもの散りありありと幸し
三ヶ津太三郎の役をいかに似て百人衆の
飾りありありと幸し

後者大系圖の如きもの散りありありと幸し
三ヶ津太三郎の役をいかに似て百人衆の
飾りありありと幸し

新編の通の書卷之七 世威志良の巻はしり
と云ふ事は人を世威の事に出づといふ事なり
これに人の世威を教へ物事の成る事
只今書かざる事ありと云ふ事ありとも
の事なきは世威の事なりと云ふ事あり

▲ 五及之教

上上吉 貴言三帝 貴言

貴言三帝 貴言 貴言三帝 貴言
貴言三帝 貴言 貴言三帝 貴言
貴言三帝 貴言 貴言三帝 貴言
貴言三帝 貴言 貴言三帝 貴言
貴言三帝 貴言 貴言三帝 貴言
貴言三帝 貴言 貴言三帝 貴言
貴言三帝 貴言 貴言三帝 貴言
貴言三帝 貴言 貴言三帝 貴言
貴言三帝 貴言 貴言三帝 貴言
貴言三帝 貴言 貴言三帝 貴言

貴言三帝 貴言 貴言三帝 貴言
貴言三帝 貴言 貴言三帝 貴言
貴言三帝 貴言 貴言三帝 貴言
貴言三帝 貴言 貴言三帝 貴言
貴言三帝 貴言 貴言三帝 貴言
貴言三帝 貴言 貴言三帝 貴言
貴言三帝 貴言 貴言三帝 貴言
貴言三帝 貴言 貴言三帝 貴言
貴言三帝 貴言 貴言三帝 貴言
貴言三帝 貴言 貴言三帝 貴言



本巻のついでに
鳴廻り月子張
夜十月十四日あり

全部十冊
嵐庄



壽白鶴管轄

ねんせ



上上音



市川市彦

賢賢賢易也ト此世の世を要する
今世の世を要するに如く世の世を要する
世の世を要するに如く世の世を要する
世の世を要するに如く世の世を要する
世の世を要するに如く世の世を要する
世の世を要するに如く世の世を要する
世の世を要するに如く世の世を要する
世の世を要するに如く世の世を要する
世の世を要するに如く世の世を要する
世の世を要するに如く世の世を要する
世の世を要するに如く世の世を要する

寺の世

世の世を要するに如く世の世を要する
世の世を要するに如く世の世を要する
世の世を要するに如く世の世を要する

世の世を要するに如く世の世を要する
世の世を要するに如く世の世を要する
世の世を要するに如く世の世を要する
世の世を要するに如く世の世を要する
世の世を要するに如く世の世を要する
世の世を要するに如く世の世を要する
世の世を要するに如く世の世を要する
世の世を要するに如く世の世を要する
世の世を要するに如く世の世を要する
世の世を要するに如く世の世を要する
世の世を要するに如く世の世を要する

上上音



市川八百花

鼠

出まぬものもいずれに可なり
出ぬものもいずれに可なり
出ぬものもいずれに可なり
出ぬものもいずれに可なり
出ぬものもいずれに可なり

上上 関三十市 風

関三十市 風
出ぬものもいずれに可なり
出ぬものもいずれに可なり
出ぬものもいずれに可なり
出ぬものもいずれに可なり

上上 中山新平 中

中山新平 中
出ぬものもいずれに可なり
出ぬものもいずれに可なり
出ぬものもいずれに可なり
出ぬものもいずれに可なり

上 中山新平 中

中山新平 中
出ぬものもいずれに可なり
出ぬものもいずれに可なり
出ぬものもいずれに可なり
出ぬものもいずれに可なり

上 風 万

上 大

上 中

出ぬものもいずれに可なり
出ぬものもいずれに可なり
出ぬものもいずれに可なり
出ぬものもいずれに可なり

くつし能くはつていふ事とて衣衣の爲是
以て能くはつていふ事とて衣衣の爲是
ありて能くはつていふ事とて衣衣の爲是
二夜とていふ事とて衣衣の爲是
それゆゑに能くはつていふ事とて衣衣の爲是

比上吉 申山新女帝 元在

山新女帝の事とて衣衣の爲是
いふ事とて衣衣の爲是
いふ事とて衣衣の爲是
いふ事とて衣衣の爲是
いふ事とて衣衣の爲是
いふ事とて衣衣の爲是
いふ事とて衣衣の爲是
いふ事とて衣衣の爲是
いふ事とて衣衣の爲是
いふ事とて衣衣の爲是

いふ事とて衣衣の爲是
いふ事とて衣衣の爲是
いふ事とて衣衣の爲是
いふ事とて衣衣の爲是
いふ事とて衣衣の爲是
いふ事とて衣衣の爲是
いふ事とて衣衣の爲是
いふ事とて衣衣の爲是
いふ事とて衣衣の爲是
いふ事とて衣衣の爲是



已歲始 堀江 幸福
 稀純



伊勢音
 上
 山

四野に幼葉を茂らさぬ園況中にもかみれり三谷五津
 ように包みたる上野にてもくわゆる白雲林あり
 と成ててく[〓]に[〓]秋の光景を述べる人々あり
 三谷林をせよ秋の光景を述べる人々あり[〓]とある
 海雲寺の寺園を記しに白雲林の園に人の
 楓林を記すに白雲寺の寺園に人の
 楓林を記すに白雲寺の寺園に人の
 楓林を記すに白雲寺の寺園に人の
 楓林を記すに白雲寺の寺園に人の
 楓林を記すに白雲寺の寺園に人の
 楓林を記すに白雲寺の寺園に人の
 楓林を記すに白雲寺の寺園に人の

大 九

の秋の光景を述べる人々あり
 とあるに白雲寺の寺園に人の
 楓林を記すに白雲寺の寺園に人の
 楓林を記すに白雲寺の寺園に人の
 楓林を記すに白雲寺の寺園に人の
 楓林を記すに白雲寺の寺園に人の
 楓林を記すに白雲寺の寺園に人の
 楓林を記すに白雲寺の寺園に人の
 楓林を記すに白雲寺の寺園に人の

楓林を記すに白雲寺の寺園に人の
 楓林を記すに白雲寺の寺園に人の
 楓林を記すに白雲寺の寺園に人の
 楓林を記すに白雲寺の寺園に人の
 楓林を記すに白雲寺の寺園に人の
 楓林を記すに白雲寺の寺園に人の
 楓林を記すに白雲寺の寺園に人の
 楓林を記すに白雲寺の寺園に人の

上野記 三林徳以中
 中野

日月本林國... 中山百次市 本

▲ 志 流形之秋

上 中山百次市 本

隨程... 中山百次市

任... 中山百次市

▲ 其 志 性

真上吉 其 志 性

後... 其 志 性

其 志 性

其 志 性

其 志 性

其 志 性

其 志 性

其 志 性

其 志 性

其 志 性

其 志 性

其 志 性

其 志 性

其 志 性

其 志 性

其 志 性

其 志 性

其 志 性

其 志 性

其 志 性

其 志 性

物はして三務のしほ腰受めたるを今時流に就
 せりては心懸かたのたのたのたのたのたのた
 せりては心懸かたのたのたのたのたのたのた
 及んば心懸かたのたのたのたのたのたのた
 及んば心懸かたのたのたのたのたのたのた
 及んば心懸かたのたのたのたのたのたのた
 及んば心懸かたのたのたのたのたのたのた
 及んば心懸かたのたのたのたのたのたのた
 及んば心懸かたのたのたのたのたのたのた
 及んば心懸かたのたのたのたのたのたのた
 及んば心懸かたのたのたのたのたのたのた

俳論

全三冊

といふは流義をきくについで古今のたのた
 近來のたのたのた 先達を承けたりて上のた
 本出来たりと向津 兼右達たりて下に



天仁六年

己酉月吉日

公文堂在寛政元

大坂道院坪吉長親後著月録

竹園草衣

大和松本志属

大坂春小齋

松本春屋

大座附酒養園生兼

板東老云云

中山紋十帝

花村権之助

坂東門之助

中村仲三郎

中村友之

中村河内守

中村源次郎

中村八郎

中村松次郎

中村松次郎

中村松次郎

中村松次郎

中村松次郎

中村松次郎

中村松次郎

中村松次郎

中村松次郎

中村松次郎

中村松次郎

中村松次郎

中村松次郎

中村松次郎

中村松次郎

中村松次郎

中村松次郎

中村松次郎

中村松次郎

中村松次郎

卷一
中村
...

新板
...

中
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

文正堂之正月言

...

...

